

平成22年度 事業計画書

<基本方針>

財団法人盛岡地域地場産業振興センターは盛岡広域圏内の地場産品の需要拡大、後継者の育成、新商品開発能力の育成、業界が必要とする情報収集提供など地場産業界の発展振興を目的とした機関として活動してまいりました。昨年度は新型インフルエンザが全国で猛威を振るい、春の修学旅行シーズンには団体客のキャンセルなどにより振興センターは大きな影響を受ける形となりました。それに加え日本経済は激動の政権交代後も景気回復が進まず、消費者の買い控えの傾向や低価格志向等には歯止めがかからない状態です。

そうした中、センターとしては夏休み期間の営業時間の延長や構成市町村の教育委員会を通じ各小学校に夏休みや冬休み期間中の特別体験教室をPRし、地元からの集客増大に努めました。また、つなぎ温泉との共同企画として「温泉と体験プラン」を行い子供会や児童センター行事等の誘致を図りました。また、各種手づくり講座やイベントの開催、野菜ソムリエとのコラボレーションによる幼稚園・保育園などの訪問、更には地元大学の学生による盛岡手づくり村の「アロニア」商品の販売促進を図ろうと企画されたワークショップへの協力なども行い、地元の方々との交流を大いに深め盛岡手づくり村への理解を得ることが出来ました。

22年度は、「みなさんに愛される手づくり村」を目指し、おもてなしの心を忘れず県内外更には外国からお見えになるお客様のおもてなしに努めます。全国的に進められている公益法人改革についても研究委員会を設置し、事業の整理・見直しなどの研究を進め、今後の地場産業振興センターとしての使命や役割を検討し、地場産業界や地域経済の発展に努めて参ります。

以上のことから、平成22年度においては、以下の諸事業を実施するものであります。

1. 地場産業振興事業

盛岡広域生活圏内の地場産業振興のため、地場産品の普及を図る需要開拓事業、地場産業との触れあいの場を提供する体験学習事業・交流促進事業、そして地場産品・地場産業を展示品・映像により紹介する展示資料室運営事業を、積極的に推進する。盛岡市内をはじめとする県内及び全国各地から「盛岡手づくり村」に來村されるお客様に有効に活用を図っていく。

また、振興センター機能の一層の充実と、関係機関・専門家等との連携から、地場産品情報の受発信、地場産業界との共同事業、後継者育成支援等を積極的に行い、地域中小企業の活性化に努める。

(1) 需要開拓事業

- ・業界組合及び出展者へ毎月POSデータの提供を行い、新商品企画開発や販路開拓の一助としてもらうほか、特に販売強化の必要な業界組合及び出展者への販売促進会議などでPOSデータから情報を分析し提供を行う。

POSデータの提供 毎月(売上報告時)

販売促進会議 年2回(6月・1月)

- ・ 修学旅行生の土産購入額に応じて、取扱エージェントに手数料を支払い、増売を図る。
- ・ 即売室内の商品の充実を図り、変化ある売り場づくりを目指す。
また、消費者のニーズをとらえ、商品構成の見直し・新商品を開拓することで、お客様満足度の上昇を図る。
- ・ 地場産品を PR し、販売促進につなげるため、各出展者と協力し、積極的な試食販売を行い、販売強化を図る。
- ・ 繁忙期（5・8・10月）に「お客様感謝抽選会」を開催し、販売促進に努める。
- ・ お得意さま（バス乗務員等）向けに「即売室ポイントカード」を発行し、サービス向上に努める。
- ・ お中元・お歳暮など、即売室内にギフトコーナーを設置する他、チラシを作成し、地場産品の積極的な販売を行う。
- ・ 商品説明など POP の充実から、買い手の立場にたった親切な売場づくりを目指す。
- ・ 県内で開催される各種イベントに参加し、地場産品の普及宣伝に努める。
- ・ 山口や山梨地域振興センター主催の物産展への出展販売を行なう。
- ・ イオングループの店舗（主に盛岡南サティ）での定期的な出展販売を行なう。
- ・ バーチャルモール「盛岡市産業まつり」（<http://www.rakuten.co.jp/morioka/>）の運営（現在のアイテム数、約450品目）を行なう。
 1. 身近なショップとしての機能の充実を図り、地場産品を広くPRし、販路拡大を目指す。
 2. 商品ページの見直しを図り、お客様が商品を探しやすくするためのカテゴリを設定する他、モバイルページを改善し、購買者数の増加と顧客の獲得を図る。
 3. ネット内で「各種キャンペーン」「オークション」「プレゼント」「共同購入」などの企画を積極的に開催するほか、定期的にメルマガを発行し、地場産品の詳しい商品情報を提供する。
- ・ ホームページ「盛岡手づくり村ドットコム」（<http://tezukurimura.com/>）の運営を行なう。
本年度は相互リンク先を増やし、アクセス数の増大をはかり、多くのネット顧客をバーチャルモール「盛岡市産業まつり」へ誘導する他、月2回配信の盛岡手づくり村メールマガジン（毎月第2第4木曜日）において各種商品やイベントなどの紹介を図る。

（2）体験学習事業

好評を博しているお菓子づくり教室や料理教室等の講座の他、市民のニーズを捉えた手工芸講習会を開催し、地域住民の手づくり村利用促進と話題づくりを図る。

通年開催している手づくり教室に関しては、修学旅行をはじめとした教育旅行の誘致PRを行う北海道・東京都での教育旅行誘致説明会参加に併せ、県内の小中学校や一般団体等、新規顧客開拓を進める独自セールス活動も積極的に行い、来場団体の増加に努める。

また、夏休みや冬休み期間中の利用者増を図るため、特別メニューを充実させるとともに告知用のチラシを近隣市町村の小中学校に配布する等、近隣へのセールス活

動にも取り組む。

- ・手づくり教室の開催（通年）
陶器、染物、竹細工、わら細工、木工玩具、ホームスパン、こけし絵付、陶器絵付、リース、盛岡冷麺（現在 10 種類のコース）
上記に併せ、通年提供できる新規メニューの研究・実施を通じて体験者数の増加を図る。
- ・手づくり講座の開催
お菓子づくり教室、野菜ソムリエ料理講座、フラワーアレンジメント講座、各種料理講座など、市民向け講座を継続して開催する他、新たな講座を企画して数多くの講座を開催する。
- ・夏休み・冬休みにおける期間限定の特別体験教室メニューの充実を図るとともに、体験メニューのチラシを盛岡市・滝沢村・雫石町等の小学校に配布する。
- ・団体体験学習の動向の把握及び旅行代理店、学校等を対象とした誘致PR活動のため、岩手県等が主催する教育旅行誘致説明会に参加する。（札幌・函館・東京の3会場）
- ・修学旅行の下見に来る学校、団体等の確実な来場確保に努める。
- ・修学旅行団体ニーズの高まる「農業体験」との共存共栄を図るため、農業体験受入機関などとの連携を強化する。

（3）交流促進事業

振興センター構成団体や関係機関の参画と連携企画を一層進め、広く盛岡手づくり村と地場産品のPRを図るイベントや物産展を開催すると共に、振興センターの施設活用促進を図るため地場関連業界、機関等の催事利用をPRし、開催に対する支援を行う。

* 季節イベント、日曜、祝日イベント等の開催

- ・盛岡手づくり村春まつり（5月）
- ・盛岡手づくり村チャグチャグ馬コ記念行事（6月）
- ・盛岡手づくり村夏まつり（8月）
- ・盛岡手づくり村秋まつり（10月）
- ・アロニア関連商品PRイベント（10月）
- ・盛岡手づくり村お正月特別営業催事（1月）
- ・岩手の清酒フェア（2月）
- ・盛岡手づくり村節句行事（3月）

* 関連業界、団体等の催事利用の推進、支援

- ・盛岡市農業まつり（9月）
- ・ツール・ド・みちのく（9月）
- ・盛岡手づくり村工房まつり（9月）
- ・南部鉄器フェア（10月）
- ・その他市町村・関係団体の催事

(4) 展示資料室運営事業

盛岡地域の地場産品を広く紹介する展示資料室の入場者を増やす諸事業を進める。

また、今後の振興センターの効率的な運営を踏まえ、入場料の無料化や展示資料室での地場産品販売等、一層の収益増大に繋がる活用について研究を行う。

- ・ 一層の展示資料充実を図る。
- ・ 展示品を通じた地場産品の生産過程や知識高揚に努め、地場産品の普及宣伝を図る。
- ・ 構成市町村展示コーナーを充実させ、その特産品の宣伝紹介に努める。
- ・ ツアーで来場する大型団体の入場誘致を図る。
- ・ 振興センターの収益増を目的とした展示資料室の新たな活用方法を研究する。

(5) 共用施設維持管理業務

盛岡市から、南部曲り家、駐車場など市有施設の維持管理業務を受託し、振興センター施設・盛岡手づくり村工房との一体的運営管理による相乗効果を図り、効率的な運営に努める。

(6) 盛岡特産品ブランド認証委員会運営事業（盛岡市委託事業）

盛岡特産品ブランド認証プロジェクトの要となる盛岡特産品ブランド認証制度の運営を受託し、物産展等への出展による認証商品の PR・販売促進に取り組む他、認証対象業界に対する認証制度の周知、申請受付、認証委員会の開催等の関連諸業務を行う。

- ・ 認証委員会、プロモーション委員会の開催（各年間2回）
- ・ 認証申請募集、認証シールの販売等、認証委員会事務局運営
- ・ パンフレット作成・配布、ウェブサイト活用等、認証商品の PR
- ・ 盛岡デー等、盛岡市主催イベントへの出展参加
- ・ 事務局によるイベントへの企画、開催
- ・ 盛岡市内ジャスコ等、大型店舗への出展・PR
- ・ 物産展等の催事におけるのぼり掲出等、認証事業所の販売促進支援

(7) 人材育成事業（盛岡市補助事業）

若手職人の商品企画・デザイン力の向上を目指す、ジバ・デザインプレナー塾のセミナー実施を継続すると共に、塾に参加する職人共同のオリジナルブランド「M-color's」製品の販売促進を目的とした催事を企画・開催する。

また、南部鉄器と漆、染め織りの組み合わせ等のコラボレーション製品の開発を行うため新たに創設された「南部ものの会」等、若手職人が参画する異業種交流グループの活動を支援する。

- ・ ジバ・デザインプレナー塾を対象としたデザインセミナーの継続
- ・ 塾生ブランド「M-color's」製品の東京都内アンテナショップへの継続出展並びに盛岡市内での展示即売会の企画・開催
- ・ 「南部ものの会」等、新規に地場産業に参入しようとする異業種交流グループ

の活動支援

- ・ジバ・デザインプレナー塾・南部ものの会等、若手職人が参画するグループの工芸品展示会への出品支援
- ・総合的学習等で研修に来る、児童・生徒の指導

(8) 情報収集提供事業

振興センターのホームページを通じて、地場産品情報、イベントや各種講教室の開催予告を行うことで販売促進、集客促進に繋げる、

また、平成 22 年度も情報公開の一環となる振興事業の経過や実績の紹介ページを一層充実させることで、市・県民へのセンターの公益事業の成果をアピールする。

22 年度新規事業としては、大学・専門学校をはじめとした教育機関に対し、地場産品情報の提供や地場産品等の販売促進、地域ブランド開発等に関する共同事業を行うことを周知、実践する。

- ・振興センターホームページの運営
(<http://www.isop.ne.jp/home/zibasan/center.htm>)
- ・ホームページによる情報公開機能の充実
- ・E-mail 活用による迅速かつ効率的な情報伝達の推進
- ・振興センター地場産品振興事業実績の周知
- ・手づくり体験事業をはじめ、収益事業の P R
- ・その他、インターネット活用による情報収集
- ・大学や専門学校への地場産品・地場産品に関する情報提供
- ・学内ワークショップ等に対する職員派遣並びに共同研究事業の推進
- ・産学官交流グループへの参加、情報収集・提供

(9) 地場産品振興研究事業 (岩手県委託事業)

盛岡地方振興局が主催する県央地場産品振興研究会の一員として盛岡地域の地場産品振興施策の検討に助言するとともに、県並びに研究会が平成 22 年度も実施継続を計画している「工芸品展示会企画・開催」の事業委託を受ける等、岩手県と連携しながら地場産品振興を推進する。

- ・県央地場産品振興研究会への参画、出席
- ・盛岡地方振興局の地場産品振興施策策定に対する助言、情報提供
- ・平成 22 年度実施する工芸品展示会企画・開催事業の受託
- ・その他、研究会で企画する事業への参加

(10) 地場産品対策事業 (盛岡市補助事業)

盛岡地域の農・畜産物や加工食品等の食材を広く P R するために、郷土料理の屋台を一堂に集め「いわてもりおか食文化フェア」を継続開催する。

- ・「いわてもりおか食文化フェア 2010」の開催
(盛岡手づくり村秋まつり・南部鉄器フェアと共催)
- ・関係市町村を通じた郷土料理屋台出展者の募集

- ・イベントの周知、PR活動

(11) 地場産業紹介催事企画実施事業(盛岡市委託事業)

ふるさと雇用再生特別基金事業について、盛岡市から委託を受け、この基金を活用し、地域休職者を雇い入れ雇用機会の創出を図りながら、盛岡手づくり村にて地場産業の説明紹介等を実施する。

- ・盛岡手づくり村来場者への地場産業の説明紹介活動業務
- ・盛岡手づくり村での来場者おもてなし業務
- ・地場産業振興及び観光振興に関する案内業務
- ・盛岡手づくり村で実施される地場産業振興に資する振興センター主催・共催催事及び関係団体催事への補助業務
- ・企画展・休日のミニイベント等の企画・運営
- ・地場産業紹介パンフレットの作成
- ・職人・地場業界紹介定期印刷物作成
- ・その他地場産業振興及び観光振興に資する活動に必要な業務

(12) 地域特産品販路拡大事業(盛岡市委託事業)

盛岡市内で生産されるアロニアや行者にんにくなどの特産品の高付加価値化を図るための試験・研究や、盛岡ブランドとして認証を受けている「盛岡りんご・津志田芋の子」などについてあらゆる機会を捉えたPRと販路拡大を図る。

- ・アロニアや行者にんにくなどの特産品の高付加価値化を図るための試験・研究
- ・消費者アンケートによる志向調査と分析
- ・盛岡ブランドの「盛岡りんご」や「津志田芋の子」に続く新たな特産品の選定
- ・インターネット通販を活用した販売促進
- ・首都圏等で開催予定の「盛岡デー」での農産物の積極的なPRと販路拡大
- ・市内商工業者との連携による商品開発の推進

2. 管理運営事業

盛岡地域の地場産業振興拠点施設、並びに観光施設としての機能を充実するとともに、周辺施設との連携やエージェントへのPRなど、ソフトやハードの面で強化を図り、来場者の誘致と利便性の向上に努める。

- (1) 各施設利用案内の周知、パンフレットの作成・配布等により、振興センターの利用促進を図る。
- (2) 施設内外の環境整備に努め、施設の安全・清潔を維持し、来場者へのサービス向上に努める。
- (3) アンケート調査を実施してニーズを把握し、広くその要望を取り入れ、利用者への利便、サービスの向上に努める。
- (4) 各エージェントに対し、積極的に誘致宣伝活動を実施し、来場者の増大を図る。
- (5) 手づくり村、小岩井農場、つなぎ温泉で連携した「ワイワイ手つなぎプロジェクト」へ参画し、周辺施設との連携強化に努める。

- (6) 御所ダムビジョン推進協議会への参画。
- (7) つなぎ温泉活性化委員会への参画。
- (8) 盛岡市の花と緑の地域づくりにも呼応して、地場産品の活用を図りながら、環境整備の一環として「手づくり村花壇」の整備を行い、花や緑の村づくりを進める。
- (9) 平成20年12月1日から施行された新公益法人制度改革について一般財団法人と公益財団法人のどちらに移行すべきかについて関係機関で組織する公益法人制度改革研究委員会を設置し、公益事業と観光振興について検討し事業整理を行う。
移行期限：平成25年11月まで（施行後5年以内）
- (10) センター施設の大規模補修等に必要な資金調達に係る高度化資金導入について、盛岡市の指導のもと平成25年をめどに研究を進める。

3. 収益事業

振興センター機能の充実を図り、安定的運営に資するため収益事業の充実を図る。

(1) 販売促進事業

産直マルシェ運営事業

- ・盛岡手づくり村産直『マルシェ』において、安心・安全な地元の新鮮野菜や果物を販売する他、こだわりの商品を提供する。
- ・岩手県内のレトルトカレーを一堂に集めた『岩手のレトルトカレーバー』が好評なことから、新しくカレーをプラスした『野菜ソムリエランチ』としてのメニュー開発を行い、お客様の満足度アップを目指す。
- ・PB商品である「アロニア関連商品」の販売を積極的に行う。
盛岡手づくり村オリジナル「もりおかベリー・アロニアカレー」の開発を行い、全国へ向け販売展開する。また、ネットショップ内の「産直マルシェコーナー」と連動した形での販売強化を目指す。
- ・定期的に出展業者の商品を紹介するコーナーを設ける。
(例えば、盛岡豆腐や盛岡納豆など。)
- ・盛岡手づくり村産直『マルシェ』のデザートメニューを開発する。
野菜ソムリエが作るデザートメニューは、出展業者のこだわりの商品や、地元の旬の野菜・果物を使い、手づくりしたもので、お客様に提供する。このこだわりの材料を使った「野菜ソムリエが作るデザート」は定期的にメニューを替え、新鮮さをアピールする。

アロニア関連商品開発事業

販売促進事業の一環として、盛岡市東部で栽培された小果実「アロニア」の特産品化を図るため生産者や研究機関等と共同で、アロニアを原料として全国に販路を広げられるような有望な新商品の更なる研究開発を進める。

また、平成21年度に盛岡商工会議所で行った「アロニアサプリメント開発事業」で作成したウェブサイトやパンフレット等のPRツールの活用や、マスメディアへの情報提供を積極的に行い“もりおかベリー”アロニアの知名度向上に努める。

- ・アロニア関連新商品の開発並びに販売促進
- ・アロニアサプリメント等、全国展開に相応しい新商品の開発

- ・盛岡商工会議所主催「アロニアサプリメント開発事業」の成果活用
- ・地元大学や専門学校との連携による販売手法の研究
- ・収穫量・商品製造数の増加に伴う適正な市内他店舗への商品出荷の検討
- ・マスメディアに対する商品情報の提供、取材対応

(2) 施設賃貸事業

南部鉄器協同組合、新たなレストランへの施設賃貸を行ない、昼食等の提供から観光施設盛岡手づくり村としての魅力継続と収益事業の収入確保を図る。

収 支 予 算 書 総 括 表

平成 22 年 4 月 1 日 ~ 平成 23 年 3 月 31 日

(単位:円)

科 目	一 般 会 計	収益事業特別会計	内部取引消去	合 計
事業活動収支の部				
1.事業活動収入				
基本財産運用収入	50,000	0	0	50,000
特定資産運用収入	10,000	0	0	10,000
事業収入	92,994,000	25,280,000	0	118,274,000
補助金等収入	45,180,000	0	0	45,180,000
負担金収入	2,938,000	0	0	2,938,000
雑収入	10,000	30,000	0	40,000
他会計からの繰入金収入	1,140,000	0	1,140,000	0
事業活動収入計	142,322,000	25,310,000	1,140,000	166,492,000
2.事業活動支出				
事業費支出	108,589,000	20,500,000	0	129,089,000
管理費支出	42,820,000	0	0	42,820,000
他会計への繰入金支出	0	1,140,000	1,140,000	0
事業活動支出計	151,409,000	21,640,000	1,140,000	171,909,000
事業活動収支差額	9,087,000	3,670,000	0	1,990,000
投資活動収支の部				
1.投資活動収入				
特定資産取崩収入	5,010,000	10,000	0	5,020,000
投資活動収入計	5,010,000	10,000	0	5,020,000
2.投資活動支出				
特定資産取得支出	10,000	10,000	0	20,000
投資活動支出計	10,000	10,000	0	20,000
投資活動収支差額	5,000,000	0	0	5,000,000
財務活動収支の部				
1.財務活動収入				
借入金収入	100,000	0	0	100,000
財務活動収入計	100,000	0	0	100,000
2.財務活動支出				
借入金返済支出	100,000	0	0	100,000
その他の支出	1,490,000	400,000	0	1,890,000
財務活動支出計	1,590,000	400,000	0	1,990,000
財務活動収支差額	1,490,000	400,000	0	1,890,000
予備費支出	50,000	50,000	0	100,000
当期収支差額	5,627,000	3,220,000	0	2,407,000
前期繰越収支差額	4,299,000	3,212,000	0	7,511,000
次期繰越収支差額	9,926,000	8,000	0	9,918,000